

1 はじめに

西宇和支部では、全小中学校生が1人1台端末での学習に取り組めるようになって2年目となっている。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う休校もあり、端末を使って授業改善を図っていくために何ができるのか、どのように活用していくのか実践研究するだけでなく、リモート学習に備えることにも取り組んできた。

2 研修実践事例

(1) ICTスキル研修

今年度、県より「児童生徒のICT活用スキルの向上を図る取組について」「愛媛の教員が身に付けるべきICT活用スキルチェック表」が出され、教員のICTスキル向上が急務となった。そこで、各校の校内研修のために情報教育主任が集まり、研修会を行った。研修は、多くの市町で採用されているGoogleで行った。より多くの学校と交流することも見据えている。

GoogleのClassroomを軸として、ファイルの配付、アンケートの実施などのスキルを中心に研修した。そのスキルが校内生活の場面でどのように活用できるのかを例示したり、実習したりするなど、先生方が活用法を想像しやすいものにした。「こんな場面でこう使いたい」と先生方に考えてもらうことが、スキル向上や授業改善に近づくことになると考えている。

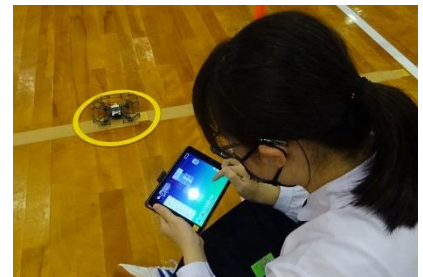


【研修の様子】

(2) ドローン教室の実践（瀬戸中学校の取組）

コミスクえひめの西村先生、成宮先生のお二人をお招きして、ドローンを活用したプログラミング講座を開催した。生徒は、ガイダンスや演示を通して、プログラミングやSociety5.0について学び、プログラミングを体験した。プログラミングの内容はゲームの要素を取り入れていた。また、ドローンは、プログラミング言語にScratchを活用できるものであり、生徒にとってなじみやすく、意欲的な活動につながっていた。最後の生徒の感想には、「距離の調整などは難しかったが、何とか成功させることができた。うれしかった。」「お年寄りの買い物に役立てられたらいいと思う。」といったものが多く見られた。プログラミング学習の導入として非常に良かったと考える。

今回の教室は、支部の先生方も参観できるようにし、10名程度の先生に参加していただいた。ICT教育の啓発活動にもなったと考える。



【ドローン教室の様子】

3 成果と課題

本支部では、タブレット端末の1人1台整備が早く、恵まれた環境である。現在、小学校では他校との交流授業に活用するなど、その環境を生かした取組や研究推進ができています。今後さらに支部全体で、情報交換や研修を進め、ICTを活用した授業改善を進めていきたい。「少人数だからできる」ことと、「少人数のハンデを補う」という二つの観点で進めていきたい。